

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和8年1月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2）

山頂に設置した監視カメラでは、機器障害や着雪のため、噴気を観測できませんでした。山麓に設置した監視カメラでは、今期間、噴気は観測されていません。引き続き、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図3～4）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

7日以降、北海道駒ヶ岳の南東約10kmで地震が増加しており、鹿部町宮浜で震度1以上を5回観測しました。このうち9日04時30分に発生したマグニチュード2.9の地震では最大震度2を観測しました。これらの地震の発生前後で北海道駒ヶ岳の火山活動に特段の変化は認められませんでした。

・地殻変動の状況（図5～6）

GNSS連続観測では、特段の変化は認められません。長期的には、山頂火口原付近を挟む基線で断続的に伸長傾向が続いています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和8年2月分）は令和8年3月9日に発表する予定です。

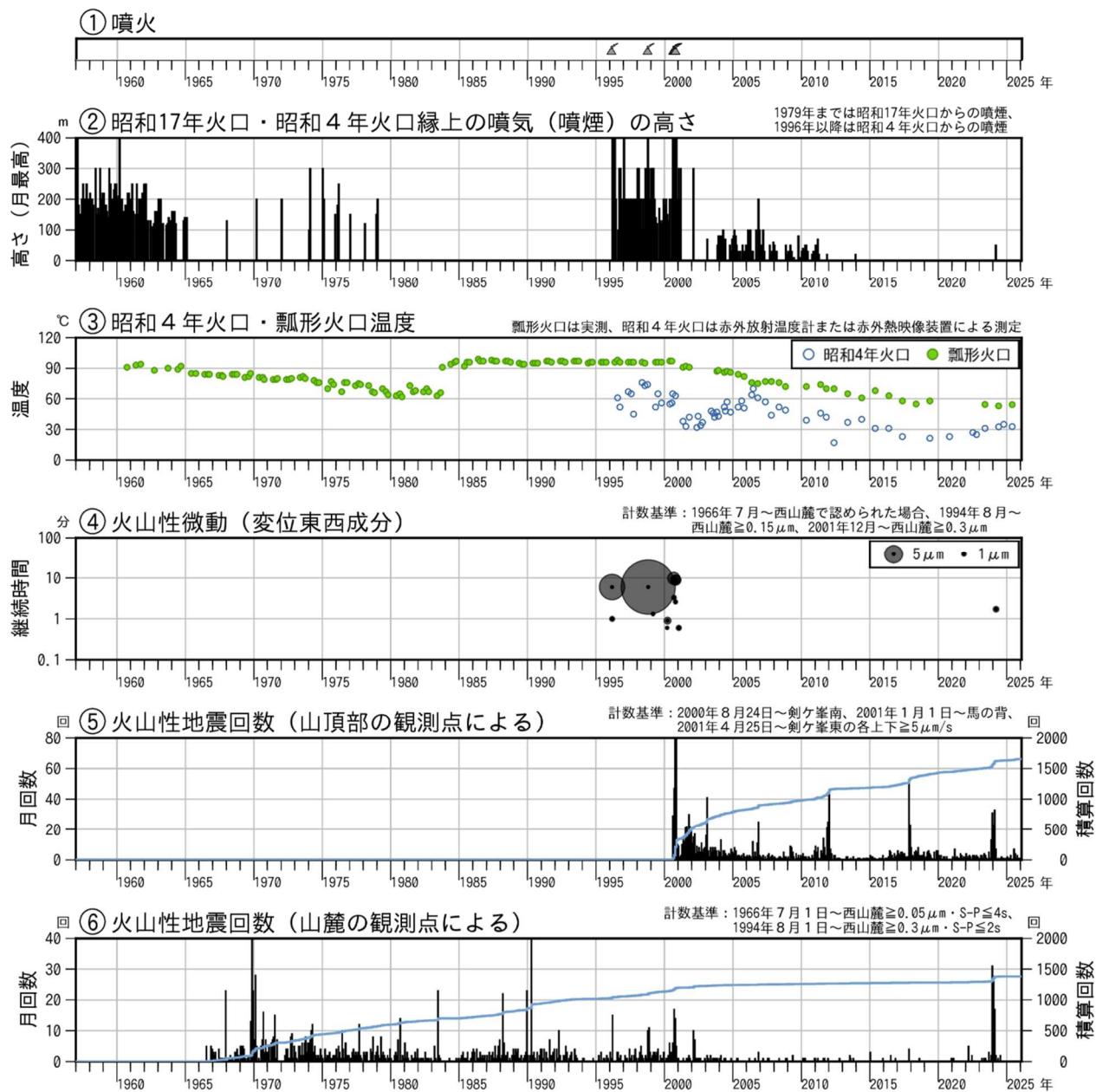


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2026年1月）
各火口の位置は、図8を参照してください。



図2 北海道駒ヶ岳 南東側から見た山頂火口原の状況（鹿部公園南東監視カメラによる）

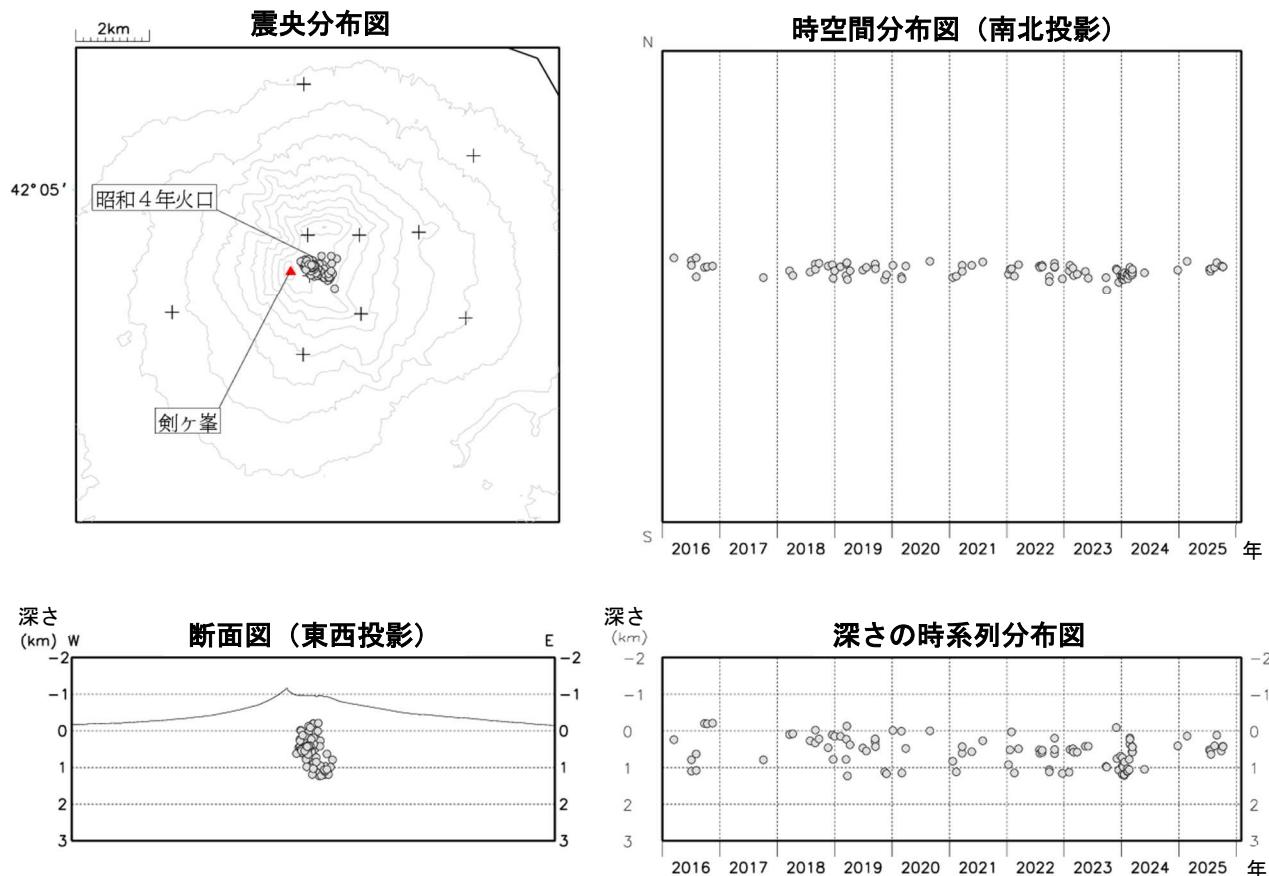


図3 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2016年1月～2026年1月）

●：2016年1月～2025年12月の震源 +：地震観測点

・今期間、震源の求まった地震はありませんでした。

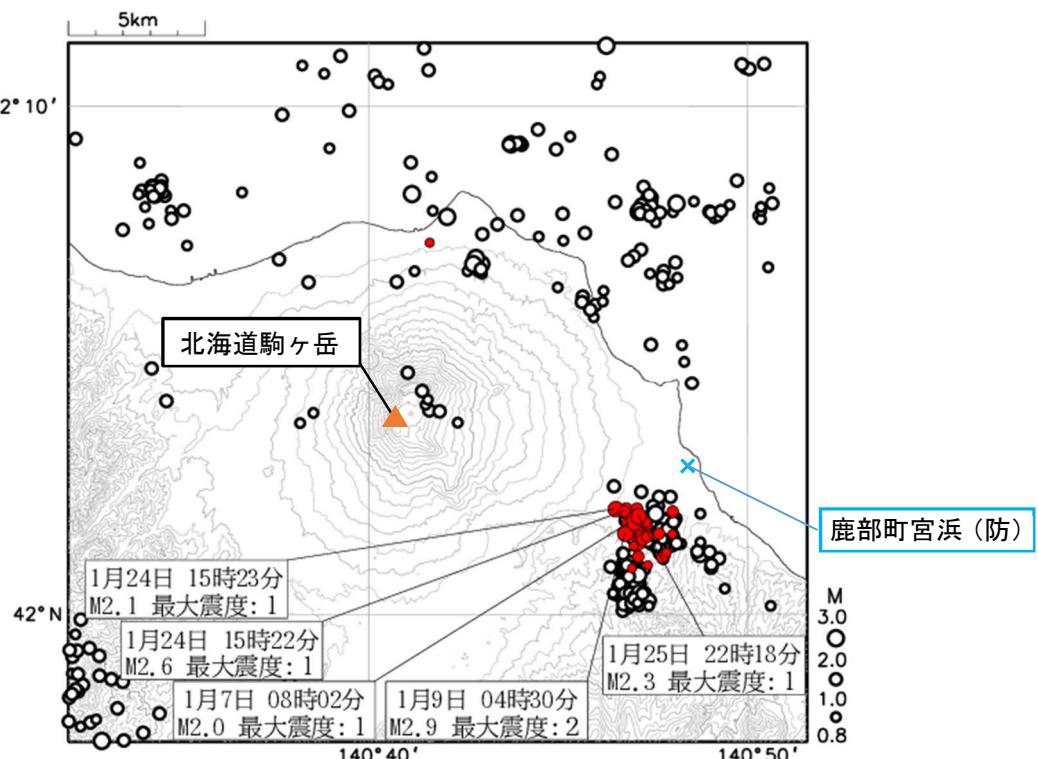


図4 北海道駒ヶ岳 広域地震観測網による山体周辺の地震活動

(1997年10月～2026年1月、マグニチュード(M)≥0.8、深さ20km以浅)

○：1997年10月～2025年12月の震源 ●：2026年1月の震源 ✕：震度観測点

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所

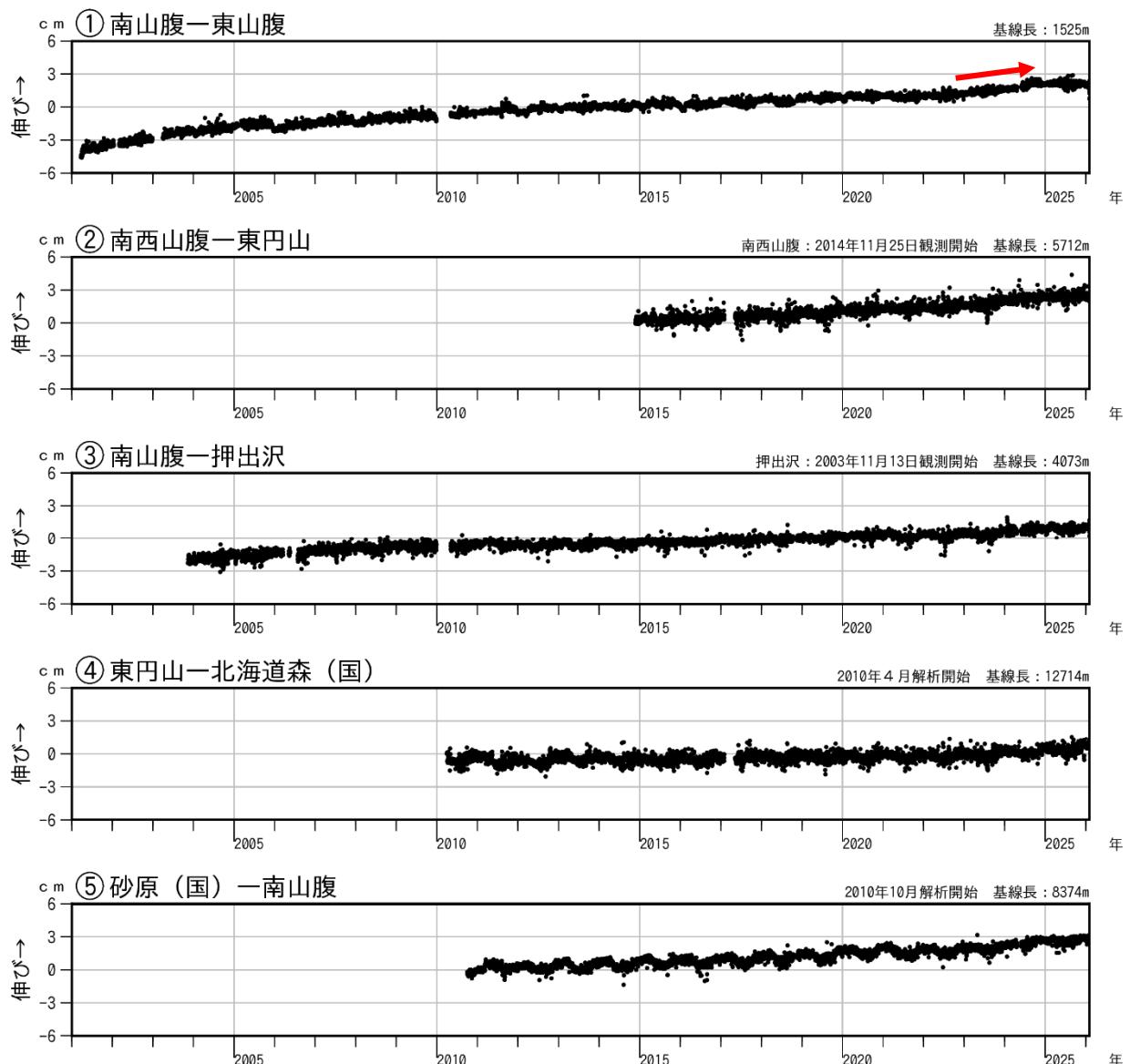


図5 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2026年1月）

グラフ①～⑤は図6の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

・2022年夏頃から2024年夏頃にかけて山頂部の一部基線でわずかな伸長が見られました（赤矢印）。

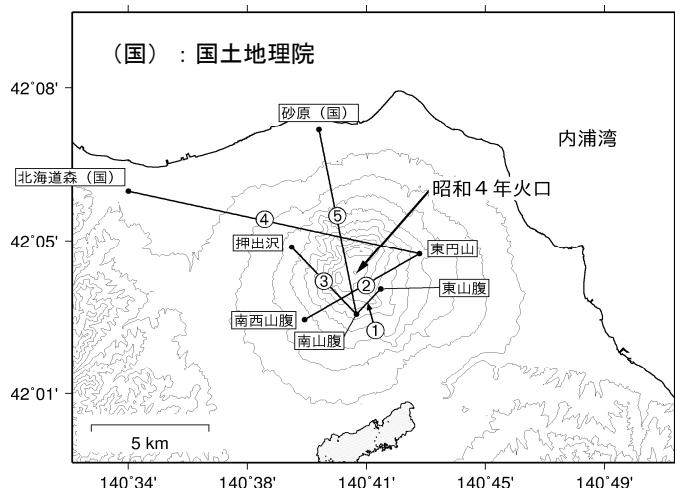


図6 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図

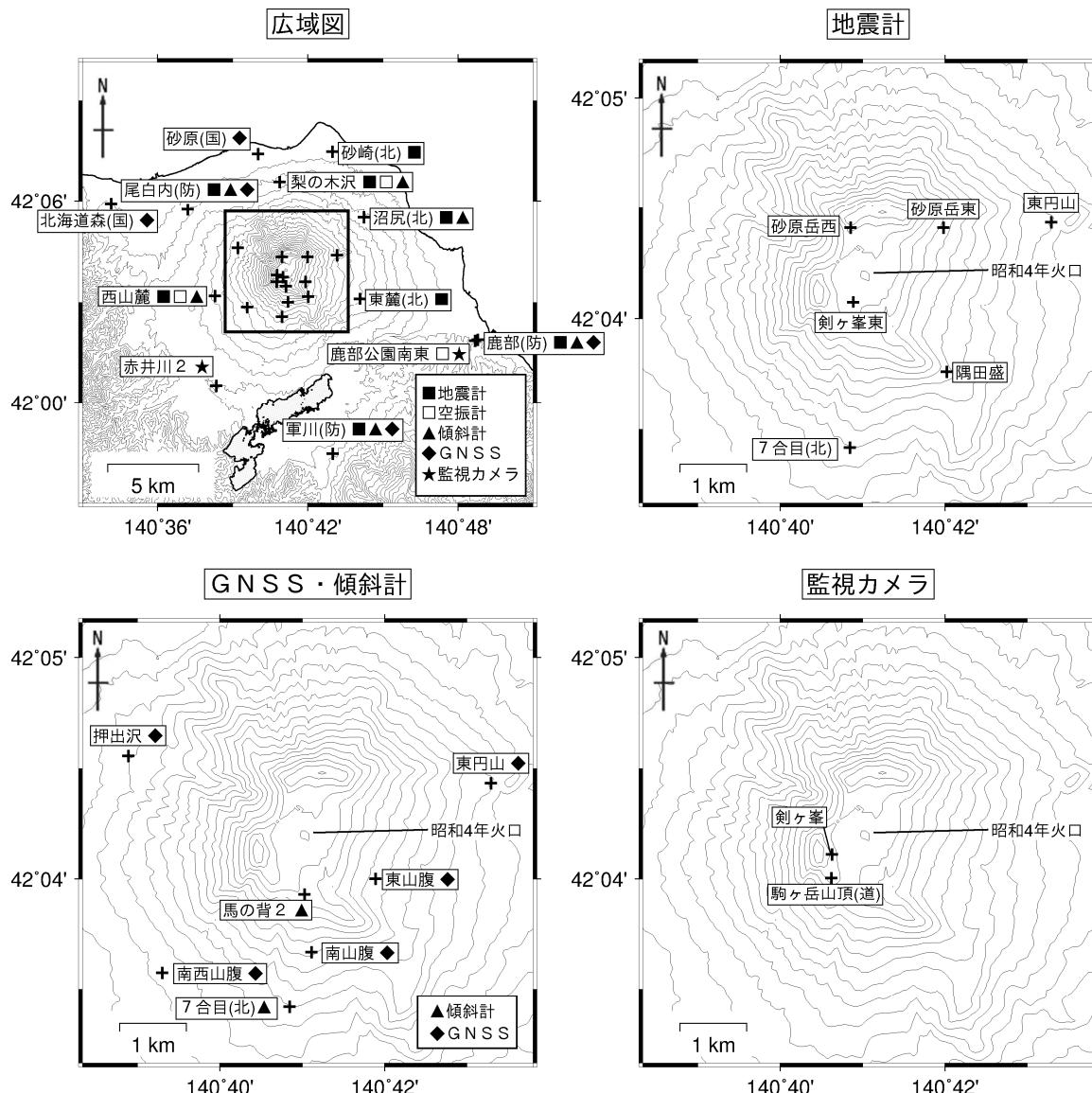


図7 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。+印は観測点の位置を示します。気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院 (北) : 北海道大学 (道) : 北海道
(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所



図8 北海道駒ヶ岳 山頂火口原周辺図